

実践報告発表題目：「日英語の対照による英語発音指導(中学校での実践から)」

発表者：磯村香里（愛知淑徳中高等学校講師）

(発表要旨)

基本的な英文構造を理解し、そして英単語一つ一つの発音は正確にできていても、ネイティブの人とのスムーズなやり取りができない場合がある。要因は様々だが、その一つとして英語の「リズム」を意識した発話がないことがあげられる。つまり、母語である日本語と外国語である英語とでは、音声面で大きな違いがあるにも関わらず、一つ一つの音節をほぼ同じ時間をかけて発音するという日本語特有の「リズム」を英語での発話に無意識的に持ち込んでいるためである。両言語のこの基本的な相違を中学一年生の英語入門レベルの段階から理解させることは、より高度なそして総合的な英語学習へと発展させていく上で必要不可欠であり、更に母国語である日本語との比較を通して語感を養い、「ことば」を大切にする気持ち（世界の言語ひとつひとつがそれぞれの文化的背景と密接な関係にあり、言語や文化に優劣はつけられないということ）を理解してもらうためにも重要であると考えられる。

この発表では主に中学校での具体的な発音指導について報告した。中学1年生という学年を十分考慮した上で、発音指導が彼女たちの精神的負担とならぬよう楽しんで学習できる環境、雰囲気作りを念頭におきながら行っている活動を紹介した。英語と日本語で書かれた文章を手拍子でリズムをとりながら、ある一定の速度で発音し、そのリズム構成を比較、検討していくことによって、生徒自身が両言語のリズム感覚を発見し、つかんでいくことができるようにした。単語一つ一つのレベルでも英語の単語では強弱のリズムが存在するが、これを一つのまとまった文章単位（word stress から sentence stress で）読むことができるようになったかどうか生徒自身が確認できるように実際の授業で行っている録音活動についても紹介した。

今後の課題としては、定着をはかるために中学3年間、高校3年間、または中高6年間での一貫したプログラム、環境作りがあげられる。